



# 千代小だより

7月号 第4号

令和8年6月29日



家庭数配付

<http://www.kawachinagano.ed.jp/chiyosho/>

## 【「しんどい」6月を乗り越えていく「楽しむ力」】



6月も下旬にさしかかり、1学期も残すところあとわずかとなりました。

「新学期を頑張ろう!」と張り切っていた4~5月の時期を過ぎ、6月は子どもたちにとっていわゆる「しんどい」時期になります。大人にとってもそうですが、まずは祝日がなくて休みが少ない。そして日に日に暑くなってくる。そもそも体力的にキツイのがこの6月です。また、学習面でも本格的にその学年の内容が始まり、お友達関係でもいろいろな悩みごとが出てくる時期でもあります。朝からしんどそうにしている我が子に何と声をかけようか、家に帰ってきた子どもとどんな話をしようか、多くの親御さんが悩むのも、この6月ではないでしょうか。

しかし、子どもの「しんどい」を親がすべて解決することはできません。子どもには子どもの世界があり、その世界では子どもが主役で、親よりも長く主体性を持って自分の世界を生きていくことになるからです。

もちろん、手放してどこまでも歩いて行けるほど子どもたちは成熟していません。だから手助けは必要ですが、この手助けを「どこまでやるか」が本当に難しいところです。「手伝い過ぎたのではないか」「ほっときすぎたからだろうか」と、結果論で悩むこともしばしばです。そのバランスを、頭で考えるというより、心で感じながら探っていくのは、親として本当に難しいなあ実感するのもまた、6月という季節です。

では、子ども側はどうかというと、もちろん悩んでいますし、困ってしまいます。しんどいこともあります。ただ、同時に「楽しいこともたくさんあるし、それを楽しむ力も強い」と感じます。

先日行われた5年生の臨海学習初日は、残念ながら天候に恵まれませんでした。予定していたプログラムが最初からできず、子どもたちは砂浜から体育館に移動してレクリエーションを行いました。雨に打たれてのイカダ体験を終え、夜まで雨が残りキャンプファイヤーからキャンドルファイヤーにメニューが変更になりました。

しかし、そこでの子どもたちのとんでもない盛り上がり、「楽しむ力」には本当に驚かされました。もちろん、行事という特別な場であったことは間違いありません。ただ、子どもには「しんどい」場面であっても、それを跳ね返すような「楽しむ力」があるのだと考えさせられました。

この子どもたちの「楽しむ力」をどうやって引き出していくのか。難しいことではありますが、子どもと関わる大人にとって、いつでも大切にしなければならぬことだと実感させられる6月でした。

## 【小中学校チラシ等掲載ページの案内について】

河内長野市では、学校を通じて各ご家庭に配布しているチラシの電石化をすすめています。記載のURLやQRコードよりご覧ください。

### 学校へ依頼のある配布物を電子化!



河内長野市  
小中学校チラシ等  
掲載ページ

<https://sites.google.com/kawachinagano.ed.jp/knhaifu/home>



毎週月曜日更新





## 6月のチヨスゴ(チヨダのスゴイとこ)



### ○まちたんけん (2年生)

校区の中を2年生みんなで探検しました。



橋の上から通り過ぎる電車  
を見ることができました



公園や消防車、お店にお地蔵さんなどを見つけました。



### ○プール清掃 (6年生)

1年間の汚れを洗い落とします!!



プールサイドに更衣室、トイレ等色々な箇所を大掃除!



ピカピカをめざしてデッキブラシで磨いてくれました。



### ○臨海学校 (5年生)

カヌーに乗って沖まで漕いでいきました。



グループで協力して筏を組み立てています。



学校では、4つの係に分かれて準備に取り組みました。



### 【保護者の皆さまへお願い 登下校中の安全やルールについて】

児童の登下校中の行動について、地域の方からご心配の声をいただいております。一部の児童が近隣の畑に入り込み、農作物を踏んだり、マルチを剥がしたりする事案が発生しています。農作物は地域の方が大切に育てているものです。他人の敷地には絶対に立ち入らないよう、ご家庭でもあらためてお話しください。また、用水路に入って生き物探しをしている児童もいるようです。田植えの時期で水量が増えており大変危険です。特にトンネルの箇所は、外から見つけることができず、重大な事故に繋がります。安全に登下校することができるよう、ご家庭でもご指導ください。



## 行事予定

### 令和8年度 行事予定表<7月>

河内長野市立千代田小学校

日	曜	主要行事	下校時刻
1	水	<通常5h> 13:30 地区児童会	全学年 14:30~
2	木	集団登校開始(～8日) 朝つばみの会《4年》 1限 セタ集会《支援》 234限 スマホ教室【オンライン】	12年 14:50 3456年 15:40
3	金		12年 14:50 3456年 15:40
4	土		
5	日		
6	月	5限 非行防止教室《6年》 6限 ぐんぐん《3年》④	123年 14:50 456年 15:40
7	火	<B校時> 児童朝会 1～4限 おはなしのとびら《6年》	1年 14:20 2～6年 15:10
8	水	<通常5h>	全学年 14:50
9	木	<短縮4h> 連合児童会 *短縮開始	全学年 13:00
10	金	<短縮4h> 個人懇談会①	全学年 13:00

11	土		
12	日		
13	月	<短縮4h> 個人懇談会② 2～4限 おはなしのとびら《5年》	全学年 13:00
14	火	<短縮4h> 個人懇談会③ 2～4限 おはなしのとびら《4年》	全学年 13:00
15	水	<短縮4h> 個人懇談会④ AM アウトリーチプログラム《ダンス》《1.2年》	全学年 13:00
16	木	<短縮4h> 4限 大掃除 2～4限 おはなしのとびら《1年》 2限 郷土歴史学習《2年》	全学年 13:00
17	金	<短縮3h> 1学期終業式	全学年 11:30
18	土		
19	日		
20	月	海の日	



### ○夏休み中のおもな行事

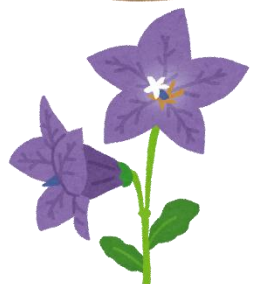
7月25日(土) ちよだ寺子屋① ※まちづくり会が共催する「お勉強会」です。

7月26日(日) 健全育成会防災デイキャンプ

8月1日(土) ちよだ寺子屋②

8月10日(月)、12日(水)、13日(木)、14日(金) 学校閉庁日

### ○9月のおもな行事



1日(火) 2学期始業式

～集団登校開始

7日(月)まで

2日(水) 6限委員会活動

ぐんぐん 4年

※教育実習開始

8日(火) 授業参観 学級懇談会

10日(木) 34限救命講習 5年

14日(月) 3限非行防止教室 5年

ぐんぐん 3年

16日(水) 5限郷土歴史学習 5年

6限クラブ活動

19日(土) PTA 環境整備活動

25日(金) 千代小まつり(予定)

28日(月) ぐんぐん 3年

30日(水) 6限委員会活動

ぐんぐん 4年

※9月の行事予定は、追加・変更の  
ある可能性があります。



## 大人の「譲らない」ことも大切です

一年間で一番、モヤモヤするのが6月です。梅雨に入りじめじめする気候も関係しているのかもしれませんが、さまざまなトラブルが起こってしまう時期でもあります。新学期が始まり学校生活に慣れてきたり、子どもたち同士の関係が深まっていったりすることも要因の一つであると思っています。ですから、学校では前向きにとらえて指導・支援をしています。

6月に入り登校しぶりを含めた「作戦会議」をたくさんしています。今の時代は昔にくらべて子育てするのが難しくなっていると日々感じています。保護者のみなさんの不安や悩みを多く聞くことがあり、大変だと感じていますし、学校としても「ともに」課題を解決していきたいと思っています。

先日、ある保護者の方の話を書く機会がありました。その保護者の方は、毎朝、遅れてでも必ず学校につれてきてくれます。5月に入って登校しぶりが激しくなって、時には1時間ほど下足室で泣いていたこともありましたが、それが6月に入って泣きながらもすぐに離れることができ、今では泣かないですぐ離れて靴を履き替えることができます。少しずつですが、切り替えが上手になって学校でも元気に活動できるようになってきています。

私がすばらしいと思うことは、保護者の方が毎朝、必ず連れてくるということを継続していることです。泣いても、イヤと言っても、学校に行くということについて譲らない態度であることです。毎日、「行きたくない」としぶっている子どもに対して「行くよ」という姿勢を取り続けることはとてもしんどいことです。でもその保護者の方はし続けてくれました。なんでも親の思い通りにさせたらよいわけではないですが、親としてこれは譲れないというところに関しては、怒らずに冷静に「譲らない」を貫くことが大切だと思っています。

## 子どもの声（愚痴も含めて）を聴いてあげること

我が家の話。高校生の娘が毎日のように愚痴を言います。先生のこと、学校のこと、部活のこと、友達のこと。多岐にわたって愚痴ります。とくに先生の文句を言われると、同業者としてモヤモヤするのは、「先生としてはこんな風に思っているんじゃないかな？」と違う考え方を伝えるのですが、聞いているのかどうか??という感じです。

少し冷静になって考えると、これだけ普段の事を言ってくれるのだから親子関係としては良いのかな!と思っています。おそらく男の子だったら全く何もしゃべってくれないということも想像できます。

人はだれでもそうですが、特に子どもたちは「話を聞いてくれる」大人を信頼すると言われていきます。親でも教師でも同じだと思います。千代田小の先生たちは忙しい中、なんとか子どもたちの声に耳を傾けたいと思っています。そして、子どもたちの愚痴を日々、聞いてくださっている保護者のみなさんにありがたさを感じずにはられません。

さあ、今日も家に帰ったら娘の愚痴を聞いて、信頼関係を築きたいと思います。